

## 台湾鐵路管理局と姉妹友好締結

12月6日、玖珠町と台湾鐵路管理局（台北市）は、現存する扇形庫をつながりとした姉妹友好の締結を行いました。

当日は、森の米蔵（玖珠・森のクレヨン・森の米蔵）で、旧豊後森機関庫を所有する宿利町長と台湾鐵路管理局が所有する扇形庫（彰化県・彰化市）を代表して、陳 志濱（ちん しひん）副団長が、玖珠町議会石井議長及び謝長廷台北駐日本經濟文化代表處大使の立ち合いの下で調印を行いました。

旧豊後森機関庫は、町の代表的な観光スポットとして海外からも多くの人々が訪れています。一方で、彰化市の扇形庫は、日本統治時代に作られ、台湾で現存する唯一の扇形庫で、現役で利用されています。

調印式で、宿利町長は、「扇形庫をつながりには始まった今回の姉妹友好をきっかけに、玖珠町と台湾との間の人々の往来が増え、観光、産業、文化、教育などの面で交流が進むよう取り組みを進めていきたい」と抱負を述べました。



写真左から  
玖珠町議会議長 石井龍文  
玖珠町長 宿利政和  
台湾鐵路管理局彰化機務段副団長 陳志濱  
台北駐日本經濟文化代表處大使 謝長廷  
台湾鐵路管理局副局長 徐仁財（敬称略）

問 総務課 秘書広報広聴班  
☎(72)1111

## 県の経営革新計画の承認を受けました

童話の里くす町黒米研究会（石井由久雄代表、大字戸畑）が「米どころ玖珠産の黒米の提案型販売によるBtoBへ進出・販路拡大事業」をテーマに、県の経営革新計画の承認を受けました。経営革新計画とは、中小企業者が「新しい事業」に取り組み、経営の相当程度の向上を図ることを目的に策定する計画で、作成した「経営革新計画（3年～5年のビジネスプラン）」が承認を受けた場合、低利融資などの支援措置で計画の実行が支援されます。

12月19日に玖珠町役場で石井由久雄さん・さちよさん夫婦が宿利町長に承認の報告を行いました。2011年に創業し、以前から栽培していた黒米を使った加工品の製造を行っていましたが、新たな販路の拡大を目指し、計画を作成しました。

今回の承認に至るまで、商工会の経営指導員から支援を受け、県や町の補助金の活用、他事業者とのコラボレーションによる商品開発など積極的に行っていました。

今後、黒米の取引事業者が増えることで、生産量を増やし、同業の生産者を増やしたいと考えています。さらに、事業者が持っているアイデアや調理技術を活用し、黒米を使った様々な料理が消費者へ提供されることで、米どころ玖珠の「黒米」として認知度の向上が期待されます。石井さんは、「いずれ黒米の製造技術やノウハウを継承させたい気持ちもあるので、新たな販路開拓をすすめ、黒米の事業拡大を図りたい。」と抱負を話されました。



写真左から  
玖珠町長 宿利政和  
童話の里くす町黒米研究会 石井さちよ  
童話の里くす町黒米研究会 石井由久雄（敬称略）

※BtoB：企業間取引引き

問 企画商工観光課 商工労政・企業誘致班 ☎(72)1151